

第 10 回大網白里市道の駅整備検討委員会 議事要旨

議 事 概 要	
名 称	第 10 回大網白里市道の駅整備検討委員会
年 月 日	令和 7 年 12 月 24 日（水） 10:00～11:45
場 所	中央公民館 1 階 講堂
出 席 者	【委 員】 1 4 名中 7 名出席（名簿順） 委員長 寺原 譲治 委 員 久我 一雄 委 員 山野辺 昌浩 委 員 星野 八千代 委 員 内山 信男 委 員 加藤岡 美佐子 委 員 齋藤 壽彌 【事務局】 企画政策課 課 長 飯高 謙一 副課長 久保 崇 班 長 齋藤 友康 副主査 鈴木 公治 有限責任監査法人トーマツ 杉野 健太 後藤 修次 竹田 卓真
欠 席 者	副委員長 加藤 文男 委 員 内山 充弘 委 員 市東 剛 委 員 安川 覚 委 員 手塚 智仁 委 員 今井 健太 委 員 小西 一裕
傍 聴 者	7 名
議事等の概要	議 事 ①サウンディング調査結果について ②事業手法・事業スキームについて ③スケジュールについて

発言者	発言内容
寺原委員長	<p>次第１ 開 会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、出席者が過半数に達していないことから議決は取らず、報告のみ行うことを説明。 ・前回に続き、内閣府の補助事業として実施している「白里海岸拠点施設の整備運営に関する民間活力導入可能性調査業務」の受託者である有限責任監査法人トーマツが出席し、資料の説明等を行うことについて報告 <p>次第２ 委員長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寺原委員長より挨拶
事務局	<p>次第３ 議 事</p> <p>議事① サウンディング調査結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より資料１「大網白里市道の駅整備検討委員会 第１０回資料」により、これまでの検討経緯と今年度の進め方（P3～P5）、サウンディング調査結果（P6～P11）について説明
事務局	<p>議事② 事業スキーム・事業手法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事①に続いて、事務局より資料１「大網白里市道の駅整備検討委員会 第１０回資料」により、事業手法・事業スキームの検討（P12～P19）について説明。
A 委員	<p>《質疑応答・意見》</p> <p>本委員会において委員に求められている役割（事務局からの説明に対し賛否表明をすればよいのか等）について確認したい。</p>
寺原委員長	<p>委員の皆様には、事務局から示された方向性についてご賛同いただけるかどうかを確認いただくとともに、課題や懸念点、修正すべき点があれば率直なご意見をいただきたい。</p>
A 委員	<p>道の駅を海岸に整備するにあたり、津波や台風、高潮の影響を理解できている委員は限られる。津波や台風、高潮による波の影響をきちんと理解し、過去の津波映像等を確認できれば、おのずとどうすべきか見えてくると思われる。</p> <p>千葉県から求められている津波対策については、３ｍの盛り土を行い、波乗り道路と同じ地盤高 ６ｍまで嵩上げとするということか。</p>

事務局	千葉県からは、波乗り道路と同じ高さまでの嵩上げ又はピロティ構造による整備を求める意見がありましたので、おおむね 3m 程度の盛り土による嵩上げ等が必要になると考えております。
A 委員	白里海岸については、自然公園法により建築物の高さが 13m 以下に制限されると思われるが、6m の嵩上げをした場合、建築物の高さは 7m 以下ということになるのか。
事務局	建物の高さについては、今後の検討事項となります。なお、公共が行う場合、必要性が認められれば、13m 以上のものでも許可されるケースがあります。
A 委員	<p>そのような内容も初めからお伝えいただいた中で検討させていただければと思う。</p> <p>なお、それだけの量の盛り土をすると大変な金額になると思われるがいかがか。</p>
事務局	整備費用については今後試算を行い、防災面とのバランスも含めて比較検討したうえで、最終的に最適な整備方式を決定してまいりたいと考えております。
A 委員	整備を進めるにあたっては、津波対策や建物計画、整備費用など検討すべき論点が多く出てくるとと思われる。委員の皆さんが一つの方向に向かっていくためには、一度委員会を 1 年程度休止したうえで、改めて委員の皆さんで検討をしてはどうか。
寺原委員長	道の駅の立地については、当初、波乗り道路内側にある複数の候補地を含めて比較検討し、委員会の中でより海に近い位置が望ましいとの考えのもと検討を進めてきた。その過程で、海岸側にも整備が可能ではないかとの判断に至り、現在は波乗り道路の外側での整備を目指すという検討経緯がある。
A 委員	道の駅を海岸に建設する方針は、多数決で決まったものの、津波などの安全面について十分な議論がなされなかったと感じている。そのため、完成後に万が一事故が起きた場合、建設を承認した委員や関係者に責任が問われる可能性を懸念している。絶対に安全という保証はない中で、あえて最も危険な場所に建設する必

<p>寺原委員長</p>	<p>要があるのか。人の命を最優先にすべきであり、実施する場合には、理解が得られるか分からないが、大きな費用をかけてでも十分に安全な整備を行うべきという立場である。賛成や反対を示すものではない。</p> <p>道の駅を堤防の外側に建設する案は、一般的には想定されていない場所であったが、建設は可能との判断がなされた。ただし、その後の県との打合せにおいて、法律に基づく制限だけでなく、これまでの検討内容とは異なる、より厳しい条件が求められていると認識している。A委員の意見が、堤防外側での整備自体を中止すべきという趣旨であるのかを確認したい。</p>
<p>A 委員</p>	<p>堤防外側での整備中止を求めているわけではないが、防災対策は完全にすべきである。盛り土等の対策を講じたとしても、津波被害を完全に予測することはできない。千葉県との協議は行うものの、費用を負担するのは市であり、検討委員会における検討結果を受けて、最終的な判断は議会に委ねられることになる。検討委員会としての役割はあくまで検討にとどまる中で、結果的に捨て駒のような立場になる可能性もあることを配慮してほしい。そのため、道の駅の整備検討自体は継続して差し支えないが、一度委員会を休止し、一定の時間を置いてから改めて検討を進めていただけると大変ありがたいと思い意見させてもらった。</p>
<p>B 委員</p>	<p>海岸地域の住民を対象に、二酸化炭素の回収・貯留事業に関する説明会が、県から委託を受けた民間事業者により開催された。将来的に、京葉工業地帯で発生した二酸化炭素を、房総半島を横断して九十九里沖の岩盤下に圧縮して貯留する計画があるとの説明があった。これが実現した場合、将来開業を想定している道の駅のイメージ低下につながる可能性があるのではないかと懸念される。</p> <p>そのうえで、A委員の意見も踏まえて対応を考えた場合、白里地区の活性化という目的は重要であり、道の駅整備自体には賛成であるものの、現在想定している海岸部への立地や事業規模、事業スケールが本当に妥当なのかについて、拙速に進めるのではなく、委員会として今一度冷静かつ慎重に見直す必要があるのではないか。</p>
<p>寺原委員長</p>	<p>この事業について、事務局の方で情報があれば伺いたい。</p>

事務局	<p>二酸化炭素の貯留に関する計画が進んでいることについては、情報として把握しているものの、具体的な施設内容などの詳細な計画内容までは承知しておりません。</p>
寺原委員長	<p>市としても当該計画については把握しているが、詳細は不明な点もあるとのことだが、個人の認識としては、内房地域の工場で回収した二酸化炭素を、パイプラインにより外房まで輸送し、地下深くに貯留することで、二酸化炭素削減やクレジット化を図る事業であると考えられる。海岸付近ではパイプラインは地下に埋設され、地上からは見えず、地盤への影響も限定的ではないかと思われる。</p>
寺原委員長	<p>サウンディング調査を通じて事業者側の考え方や課題が明確になり、事業手法に関する理解が深まった。その上で、運営事業者と設計・建設事業者では望ましい事業手法に違いがあるものの、共通してDB+O（EOI方式）の優先順位が高くなっている。</p> <p>これまでの話におけるDB+Oでは、運営事業者と設計・建設事業者が組となり事業を行うものと認識していたが、今回の資料を見ると、運営事業者を先行して選定した上で、後段で設計・建設事業者と組成する段階的な事業スキームを想定しているということか。その場合、運営事業者が初期段階から関与する形になるのかを確認したい。</p>
事務局	<p>ご認識の通りです。最初に、運営事業者を先行して決定し、それから設計の仕様等を運営事業者と固めて、設計・建設事業者を公募発注するという流れを想定しております。</p>
寺原委員長	<p>Oというのは全体の運営事業者で、その上にまた指定管理者が乗るといようなイメージか。</p>
事務局	<p>DB+OのOの事業者イコール指定管理の事業者となります。</p> <p>補足になりますが、事業手法としては、まず運営事業者（O）を先行して選定し、その後に設計・建設事業者を選定する方式を想定しております。両者は同一事業体として組成するのではなく、別事業体となりますが、運営しやすい施設とするため、設計・建設段階では両者が合同で協議や意見交換を行いながら事業を進めていくこととなります。</p>

寺原委員長	16ページにおいて、サウンディングの結果を受けて、これまで検討してきた機能についての優先度のランクが変わってきているが、この点について意見はあるか。
A 委員	<p>計画されている道の駅は規模が大きく、従来の道の駅というよりテーマパークに近い印象がある。</p> <p>その中で、スーパーや日用品販売については採算面等の課題が指摘されており苦勞すると思われる。また、地元の水産加工業者も事業者数が少ない現状では参入が難しく、結果として市外事業者の参入が中心になるのではないかと懸念される。</p> <p>地域連携施設として想定されている屋根付き広場について、現段階で海岸につくる屋根付き広場とはどのようなものを想定しているか、多目的利用が可能なのかについて確認したい。</p>
事務局	屋根つき広場のイメージとしては、完全に開けた広場があるというよりは、悪天候にも対応できるような広場を想定しております。
寺原委員長	屋根付き広場については、サウンディング調査の中で事業者から提案された内容であり、現時点で確定した条件ではない。屋根の有無やドッグランの設置も含め、今後検討が必要との考えである。また、機能の優先度が前回から変更されているのは、サウンディング調査の結果を踏まえて検討の精度が高まってきていると理解している。
C 委員	南今泉と北今泉の南部は、既設の排水設備により雨水は速やかに真亀川へ排出され、浸水が発生しにくい状況である。これにより、一定規模の津波についても大きな危険は生じにくいのではないか。
A 委員	道の駅を盛り土した場合、海の家はどうなるのか。
事務局	海の家につきましては常設の施設とはなりませんので、現状と同様の対応となります。
D 委員	白里海岸は全国に無い上下水道などのインフラが整っている海岸であるが、波乗り道路の内側の候補地は、そのようなインフラ

寺原委員長	<p>整備が進んでいない。候補地の検討の際、この点も踏まえて選定した。</p> <p>津波対策としては、海の家では平均60センチ程度の嵩上げをした結果、5～6メートルくらいの高潮なら波は来ない。それ以上であれば、何回か波が乗り上げて駐車場の方まで来ているのが現状である。</p> <p>災害はいつ来るか分からないが、白里地区は高齢化が進んで買物が大変な人もいるので、規模は小さくてもいいから、とにかく早く道の駅を作ってほしい。</p> <p>津波への対応や施設計画の具体的な検討はまだこれからであり、現時点では決まっていない。今日の委員会では、事務局からの報告を踏まえ、今後の方向性についての確認としていただきたい。</p>
事務局	<p>議事③ スケジュールについて</p> <p>・事務局より資料1「大網白里市道の駅整備検討委員会 第10回資料」により、事業化に向けたスケジュール（P20～P22）について説明</p>
寺原委員長	<p>《質疑応答・意見》</p> <p>以前提示されたスケジュールに今回の資料の内容を加えて書き直したもので、開業目標は概ね変わっていない。公募準備や公募事業者選定などの用語が加わり、計画の内容がより具体的になったと理解している。スケジュールが極端に前倒しや遅延しているわけではない。</p>
E 委員	<p>国土交通省が掲げる道の駅のコンセプトに「防災道の駅」があるが、波乗り道路の外側に建設すると、県の指導により避難場所としての指定や設置はできない可能性がある。この場合、国の防災道の駅のコンセプトから外れることになるのか。</p>
事務局	<p>「防災道の駅」は道の駅のカテゴリーの一つであるが、波乗り道路の外側に建設する場合、防災道の駅の対象にはならないと思われます。ただし、道の駅としての基本要件から外れるとは考えておりませんので、今後、国や県と調整を行いながら対応してまいりたいと考えております。</p>

E 委員	<p>以前の会議では、観光客も含めた避難場所として活用する案があったと思うが、現状では道の駅を避難場所として指定できず、道の駅への避難は案内できなくなるということか。</p>
事務局	<p>当初、お伝えしていたのは、第一前提として、災害時には、波乗り道路より内陸側に避難することを優先し、そのうえで、高い建物である道の駅が、結果的に、逃げ遅れた方々の一時的な緊急避難に活用できる可能性があるというものであり、周辺住民や観光客の避難場所となるような市の指定避難施設として整備するとの主旨ではありませんでした。</p> <p>なお、千葉県からの意見は、津波避難に関しては、津波が来ないところに逃げるのが大前提であり、浸水区域である波乗り道路の外側に、災害時の避難場所とすることを主目的として、施設を整備するのであれば、望ましくないのではとの主旨であったと認識しております。</p>
寺原委員長	<p>道の駅の防災機能として、津波避難タワーのような本格的な避難施設は当初から難しいとの認識が示されていた。建物の高さなどを踏まえつつ、住民の避難を前提としないまでも、一部の防災機能を持たせる方向で、引き続き委員会で検討していきたい。</p> <p>今年度は導入可能性調査を実施しているが、今後のスケジュールについて改めて事務局より説明願いたい。</p>
事務局	<p>今年度は2月中旬に第11回の検討委員会を開催予定で、盛り土やピロティ形式による道の駅整備の概算事業費をお示しし、その金額に応じて市財政に与える影響も含めて委員の皆様を確認していただきたいと考えております。また、金額等を踏まえた上で、最後に、今後の事業の担い方について委員会にお諮りし、最終的な方向性を決定してまいりたいと考えております。</p> <p>次第4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見、連絡事項等なし <p>次第5 閉会</p> <p style="text-align: right;">-以上-</p>